

裾野麗峰山の会・山行報告書	文・井上 写真・後藤
山行番 NO.1945	
日時 2021年9月25日(土) 曇り時々小雨のち晴れ	
山域 富士山・小富士(1970m)	
コース 長泉 6:00-新潟運輸 6:08-三嶋神社 6:15-新東名-須走 IC-須走登山口-標高 1320m(登山開始) 7:10-小富士(三角点 1905m) 8:52-小富士頂上(1979m) 昼食休憩 10:15~10:55-登山口 12:15-アオキ食料調達-千福下 13:55(男子3名追加歩行) -合谷さん宅 14:48-直会 15:00~17:30-長泉(片道=約45km)	
標高差 上り・下り 登山口約1415m~小富士1979m=約564m	
藪漕度 上り・下り なし	
難易度 非常に困難 困難 やや困難 普通 レやや易しい レ易しい	
富士山番外編のグランドキャニオン・小富士・キノコ汁	
参加者 後藤、加藤、星、勝又、合谷、井上=6名	

今年の夏は、雨が多く、晴れば猛暑、さらにコロナで自粛ムードもあり、テレビはオリンピック。と、家の中でじっとしているしかなかったという言い訳もあり、今回は2ヶ月ぶりの山歩きだった。

当初、標高約2450mの六合目・長田山荘まで上り、5合目・東富士山荘(2240m)で昼食という計画で、標高差1000mのハードな訓練を想定していた。しかし、もしやと思ったが、案の定、今年もキノコの山となり、結局、小富士までしか登らなかった。



爽やかな朝



グランド・キャニオン入口

天気予報は曇り。登り口より少し上の道際に駐車しスタート。登り口では、地図にある破線のルートの入口とは別の北の方角に進む道があり、「グランドキャニオン」と書かれた石の道標が立っていた。

せっかくなのでグランドキャニオンを見にそちらへ進むことにした。今回は合谷さんが道先案内

人となった。とはいえ、道を知っているわけではなく、ただ尾根をどんどん登っていけばよいということだが、歩きやすいルートを探しながら進み歩く足も速くなる。しばらく森の中を歩くと、グランドキャニオンのお出ました。

目の前に大きな地層の壁が現れる。地層は斜めに走り、あるところではぐにやりと曲がり、地面の下では大きな力がゆっくりと働き、地形を作り出していることが感じられる大きな風景だ。車を走らせているときに、巨大な砂防ダムをいくつも作っている工事中を通過した。このグランドキャニオンの沢が道路に交わるところに、どんどん砂が流れ込んでくるのだろう。我々が立っている沢の南側でも、落下防止のロープが所々で杭ごと崩れ落ちていた。あんな奈落の底に落ちたら這い上がれない。



G案内人??

森の中の道はところどころでトリカブトが咲いていた。樹林帯を出ると、グランド・キャニオンは普通の沢になり、溶岩床を対岸に渡った。上は火山砂礫の坂になる。オンタデが紅葉し金色に光って見える。フジアザミも所々で咲いている。すぐに霧がでて真っ白になった。砂礫のため、踏み出した足が少し埋もれて戻ってくるので、効率が悪い。やがて小雨が降ってきた。ザックが濡れるので、各々ザックカバーを付けたり傘をさしたりした。

小富士の三角点 1905m 到着。三角点の標石の根本は 1m くらい下がっている。三角点は 1905m だが、実際の地面は 1904m。山が低くなっていく。

南側の木が生えている辺りから若い男女が現れ籠を持っていた。見せてもらおうと「ジゴボウ（ハナイグチ）などのキノコが入っていた。ここで、後藤さんにキノコ狩りのスイッチが入った。試しに近くの林の中に入りちょっと探してみたら何本か見つけ、今日はチャンスと、登山予定変更。さらに登って 1979m の小富士頂上に達すると荷物を置いてキノコを探した。

しかし、小富士頂上付近では、須走口 5 合目からのキノコ狩りの人たちがたくさん来ていて、あまり残されていないようだ。また、ジゴボウに似ているが傘の表に模様があるキノコを見つけたが、食べられるか確信がなかったので、キノコ採りに来ているおじさんに聞いたところ「キノボリイグチ」といっておいしいキノコだと教えてもらった。

昼ご飯休憩は早すぎるがおなががすいたということで 10:15 から小富士の頂上の小さな祠の北側で風をよけるように陣取った。風があり、かなり寒い。カッパを着る。寒くて手の指はあまり感覚がなくなっていた。

いつもは3分でできるカップヌードルだが、今回はカップうどんで5分かかるものだった。寒い時は3分でできるものがよい。5分経つとだいぶ冷えてしまった。時々青空が見えた。(翌朝、富士山の初冠雪が報告された。寒いはずだ。)



三角点・小富士



若いアベックのキノコ



小富士峰



祠があった

下りでは一時的に霧が少なくなり、上りでは見えなかったまわりの地形が見えた。帰りのルート間違えかけ、危うくグランドキャニオンの北の尾根に行ってしまうところだった。帰りに見たグ

ランドキャニオンでは垂直に見える壁に鹿が斜めに横切って往復した足跡が見えた。よくあんなところを歩けるものだと感心した。鹿が行けるなら、私も行けると加藤さん。帰りのルートは行きと一部違っていたが、スタート時に行かなかった道に出たようだ。



盆栽風美味のキノボリキノコ



お化けジゴボウ



見事なテンカラ（天然唐松）



下半分が黒い（水が浸みている？）

12:15 ゴール。キノコは傷みが早いので急いでベースキャンプ（以下 BC）と呼んでいる合谷さん宅ガレージに向かう。このままでは午後 2 時過ぎに BC に到着してしまい直会には早すぎるという



70度～80度の斜面に伸びる一条の斜め線は、鹿の足跡と考えられる



帰着

ことで、後藤さん、勝又さんと私の3人は千福ヶ丘の入口で車を降り、BCまで歩くことにした。50分くらい登りの道を歩き、きっちりと汗をかいてのどが渴いた。これで準備OK。合谷さんハンドメイドのクラフトビール（ゴーヤビール）が楽しみだ。

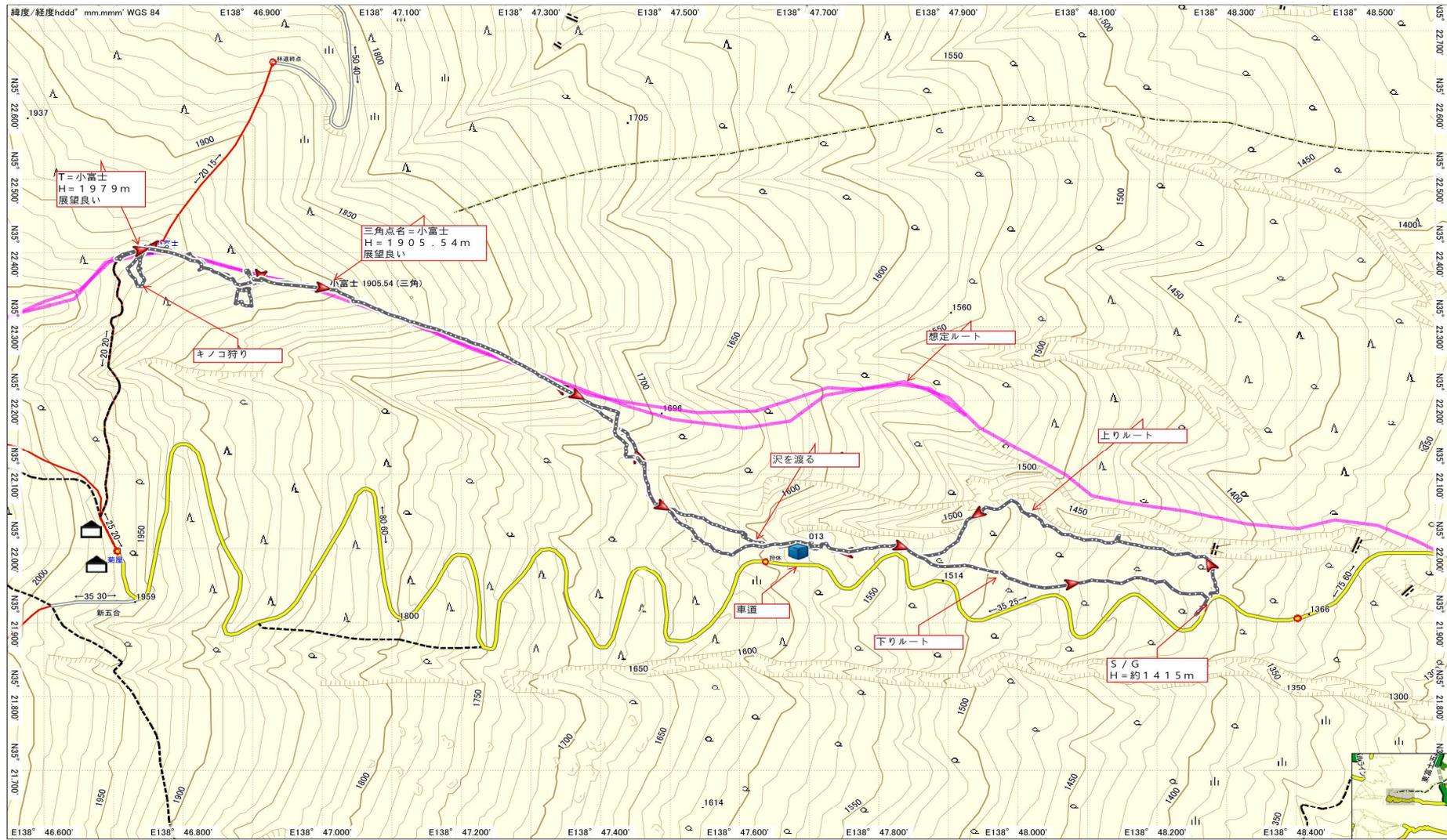
BCではすでにキノコ汁も完成していた。たっぷり肉と野菜を食べ、うまいビールを飲み、しめはキノコ汁。秋の味覚も楽しみ、ちょうどよい休日でした。

以上



直会





Japan Topo 10M Plus V3
 © Garmin Ltd. 2014
 Garmin Corporation 1990-2014

2021/09/26 6:38:47



GARMIN

